

令和6年度 第2回生坂村脱炭素先行・再エネ推進事業評価会議 会議録

日 時：令和6年12月24日（火）13時30分

場 所：生坂村役場2階 第2会議室

【協議事項】

（１）令和6年度事業進捗状況報告

- ① PPA 方式による民家、民間施設、公共施設、遊休地等への PV（太陽光パネル）、蓄電池の設置
- ② 民家への調光型 LED、高効率給湯器、高効率空調機等の導入補助
- ③ 民家へのペレットストーブ、薪ストーブ導入補助
- ④ 公共施設への LED、省エネエアコン設置に伴う調査設計
- ⑤ デマンドレスポンス需要管理システム
- ⑥ 公共施設へペレットストーブ導入
- ⑦ 古民家リノベーション
- ⑧ 公共施設等へ EV 充電器導入
- ⑨ 公用車を順次 EV 車両への転換及び土日祝日にカーシェアリング
- ⑩ 村営バスを順次 EV 車両への転換
- ⑪ やまなみ荘のボイラーを木質バイオマスボイラーへ転換
- ⑫ 村営集合住宅（ZEH 化）
- ⑬ 執行事務費
- ⑭ デマンドレスポンス需要管理システム
- ⑮ 生坂ダム小水力発電施設設計
- ⑯ 自営線マイクログリッド（需要調整用）設計

【質問】

・2年目が終わろうとしている。最終年度も繰越の可能性があるとしたら5年間計画ではなく、5年11か月の期間となるのか質問があり、繰越可能予算が割り当てられていたらそのようになる。国の予算によると回答

・デマンドレスポンス需給管理システムのそれぞれの計画施設数は最大値となるか質問があり、契約をしてくれる施設や民家にシステムを導入していく。太陽光パネルや小水力発電の電力と蓄電した電力で運用していくことになるかと回答

・最終的に村内の再エネ電力だけで賄えず、外部から調達することがあるか質

問があり、冬場は発電量が少なくなることが予想される。そうすると、(株)いくさかてらすが電力市場から調達して契約者に提供する様になる。また、デマンドレスポンスを活用して、なるべく発電した電力だけで乗り越えられるようにしていきたいと考えていると回答

- ・オフサイトの太陽光パネル設置はまだ確定ではないということですね。と質問があり、今年は 1 か所を調査し来年度パネル等設置するが、他は契約者数と見合わせて検討していくと回答

- ・やまなみ荘のボイラーの稼働はいつからか質問があり、来年度にやまなみ荘が改修の計画があり、その中でボイラーの切り替えを行う。それが終わり次第稼働させるが、施設改修の実施時期を現在検討していると回答

- ・民家への省エネ、ストーブ導入補助について、環境省では上限はないが、今後も村で上限を付けずに交付するのか。また、導入機器に制限を付けるか質問があり、7 年度は省エネ機器の新設もできるようになり、運用としては上限を付けるかどうか検討していくと回答

- ・ペレットを村内でつくることは難しいと第1回で話があったが、今後もペレットは上伊那から購入するのか質問があり、森林整備にも関係するが、使う量に合わせて今後検討していくと回答

【意見】

- ・小水力と PPA だけでは電力が足りなくなるだろうから、どうしてもオフサイトが必要になるのではないかと意見がありました。

- ・公共施設はペレットが扱いやすいと思うが、ストーブは安い燃料は高い。薪ストーブは本体は高いが燃料は安い。高齢の方などはペレットが扱いやすいと思うので、ペレットを製造して手に入りやすい仕組みを構築してほしい。広報誌を活用して、世帯別に適したストーブ（ペレット or 薪）を紹介してもよいのではないかと意見がありました。

（２）評価委員による講評

説明した内容について講評を頂きました。

- ・古民家リノベーションは築 50 年として区分けをしている。来年度からは年数は関係なく行う事業メニューがあり、新築をより良くしたい方、古民家を過ごしやすくする方の両者にアプローチできる良い補助だと思われる。

長野県も目標にしているが、既存住宅のゼロエネルギー化が重要だと思うので、是非実態に即した補助を進めていってほしい。また、社協の方に協力いただき、交付金の活用について高齢者にアピールしてもらっても良いのではないか。うまくつながると高齢の方の意識啓発にもつながる。デマンドレスポンスの反応は在宅が長い方が反応が良いので、できるだけ早い段階で高齢者等の層にアプローチしていただきたい。また、福祉の見守りとセットで行ってみてもよいのではないか。

- ・再エネ機器の新設が可能となれば喜ばれる。電気使用量の問題もあるので、新設ばかりでなく、入れ替えの PR も引き続きしていくべき。

- ・(株)いくさかてらすが軌道に乗れば、エネルギーの効率化に向けて 1 軒 1 軒お邪魔して補助金の導入も紹介できると将来的に明るい考える。

- ・最終的に民間裨益を進めなければならないと思う。小水力が順調に進んでも発電量が 100Kw なので、太陽光がどれだけ進むかが課題かと思われる。

- ・公共施設の太陽光は公共分で終わってしまうと思うのでプラス α をどこで確保できるかが課題となると思う。

- ・農業倉庫は荷重に耐えられないこともあるが、薄いフレキシブルパネルの導入も検討したらどうか。

- ・縦型のパネルの導入を防風のために農家が付けているところもある。垂直型は積雪の心配が無い。朝夕の平たいソーラーパネルが苦手とする時間帯に発電が可能となる。冬は日が短いと弱点になるが、農家が使いたくなるような仕様にしなければソーラーシェアリングは実現されない。

- ・野立てが嫌だという意見に対して、農業と共生するやり方で活用できないかを検討できれば、オフサイトでの電力発電量も増加するのではないか。

(3) その他

- ・今後の予定として、来年度5月に令和7年度第一回事業評価会議を開催し、令和6年度事業のふりかえりと、令和7年度の事業計画について説明することをお知らせした。